

令和6年度「マチ×かご」講座業務委託仕様書

1 委託業務名

令和6年度「マチ×かご」講座業務委託

2 委託業務の目的

本事業は関係人口の創出・拡大を図ることを目的に実施する。

3 委託業務内容等

(1) 概要

地方との関わりに関心を持つ県外居住者を対象に、鹿児島県の地域課題に関する『「マチ×かご」講座』（地域セミナー・フィールドワーク・報告会等）を開講し、その受講を通じて本県との関係性を構築・継続することで、地域の活性化、参加者の地域の担い手としての活躍や将来的な移住につなげる。

・ 講座のテーマ

日本の食料供給基地『かのや』の魅力を知る（仮）（日本の食料供給基地を形成する本市の農林水産業の作業体験を通じた担い手確保策や地元ならではの「食」の魅力を知ることによる関係人口（ファン）の拡大）

※県及び事業参加市町村と協議の上、最終決定する。

・ 事業参加市町村

鹿屋市

・ 事業イメージ

別紙参照

(2) 業務内容

① 参加者の募集

WebメディアやSNS等の広報媒体を活用し、県外居住者に対し、鹿児島県の魅力をPRするとともに、本事業参加へのアプローチを行うこと。

・ WebメディアやSNS等の広報媒体を活用した当該事業のPRを1回以上行い参加者の募集を行うこと。

・ 参加者想定数

■ 地域セミナー・オリエンテーション：制限なし

■ フィールドワーク：対面15人程度

■ 報告会：15人程度

※別紙事業イメージの「地域セミナー・オリエンテーション」、「フィールドワーク」、「報告会」は、原則として連続して同一の者が参加することを想定。

② 事業の企画・運営

「日本の食料供給基地『かのや』の魅力を知る（仮）」に関する講座を企画・運営し、その受講を通じて参加者と本県との関係性を構築・継続する。

※事業内容については、本事業受託後、県及び事業参加市町村と協議の上決定する

③ 本講座の広報

講座終了後、フィールドワークの様子をWEBレポート及びダイジェスト動画等にまとめ、鹿児島県の更なる関係人口創出・拡大に繋げるため、県外在住者に対し広報を行う。

④ 報告会参加者へのプレゼント選定

フィールドワークを踏まえた地域課題解決策のアイデアを提出した参加者に対し、プレゼントを選定する。プレゼント費用については、別途計上するため、選定の際は必ず事前に県担当者に確認を行い、了承を得ること。

(3) 費用負担

① 参加者負担のもの

交通費（鹿屋市内での移動に係る交通費除く。）、宿泊費、滞在期間中の飲食費等、国内旅行損害保険料

② 委託料に含まれるもの

参加者負担に係る費用以外

※鹿屋市内での移動は貸切バス等を想定しているため、貸切バスの借り上げ料を委託料に含めること。

③ その他

本講座の受講後に参加者からアンケートを徴すること。

※アンケートの内容については、本事業受託後、県と協議の上決定する。

4 実績報告書の作成に関すること

事業終了後、30日以内に、実績報告書を2部作成し、A4サイズで提出すること。実績報告書については、併せて電子データも提出すること。

なお、実績報告書には、次の内容を含むものとする。

① 事業の概要

② 事業の実施体制

③ 収支報告

④ 参加者情報（居住地、年齢等）

⑤ 事業の内容、実績及び提案等

（提案については、事業の実績及び参加者のアンケートを踏まえて、本事業の改善点や関係人口創出・拡大に資する提案を想定）

※ 電子媒体については、別途協議すること。

5 著作権等

本事業により得られた成果品及び電子データ等、新たに作成したコンテンツに関する著作権と、これを構成する素材の著作権（二次的著作物の利用に関する原作者の権利を含む）は、鹿児島県に帰属し、鹿児島県は、これらが無償で自由に改編し、二次利用することができるものとする。

6 履行期限

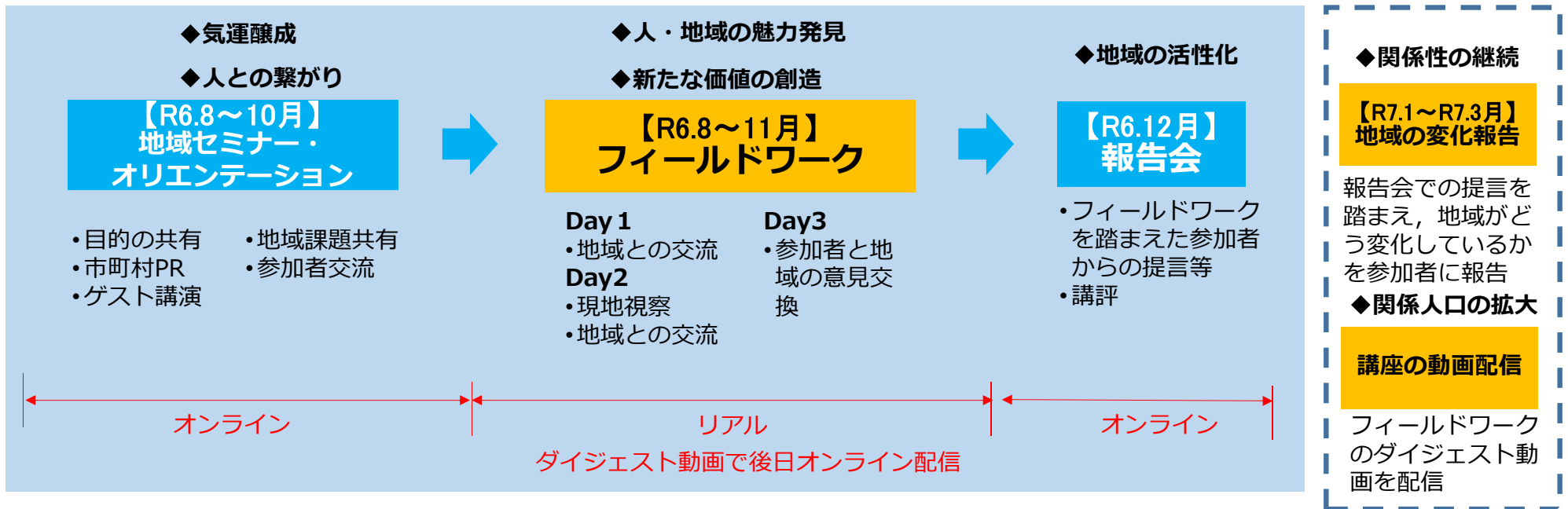
令和7年3月21日

R6 「『マチ×かご』講座」イメージ

【目的】

地域課題に関する講座やフィールドワーク等を通じて関係人口の創出・拡大を図り、地域の活性化、参加者の地域の担い手としての活躍や将来的な移住に繋げる。

- 連携市町村：鹿屋市
- テーマ：日本の食料供給基地『かのや』の魅力を知る（日本の食料供給基地を形成する鹿屋市の農林水産業の作業体験を通じた担い手確保策や地元ならではの「食」の魅力を知ることによる関係人口拡大策）



【事業参加者】

- ・市町村
- ・地域
- ・フィールドワークのリアル参加15名程度

【所要時間】

- ・オンラインイベントは2時間程度
- ・フィールドワークは2泊3日

【参加者の費用負担】

- ・交通費（市町村内での移動に係る交通費除く）
- ・宿泊費
- ・飲食費等

【事業の効果・展開】

効果：市町村はつながった県外居住者と連携し、課題解決に取り組み、関係人口を創出した結果を生み出す。

展開：市町村等は報告会で出された講評等を踏まえて更なる取組の改善を図ることで、関係性を継続する。